

黒木西

黒木西小

学校だより

文書:校長 齋藤英義

令和4年6月10日(金)

NO.29



何のためにするのか

の場所をいっぱい探してきてくださーい！行ってらっしゃい！と、見送りました。



©Hoiclue

話は変わりますが、「学習指導要領」(文部科学省が、小学校、中学校、高等学校等ごとに、それぞれの教科等の目標や大まかな教育内容を定めたもの)の中に、理科学習の目標として、次のような文言があります。

「…見通しをもって観察、実験を行うこと…」

これは、それまで、実験で自分は何を明らかにしようとしてそのような実験を行っているのか、どうしてそうする必要があるのかもわからず、ただ実験器具を扱うことが楽しみで活動することが多く、学習したことが身についていない事への反省から出てきていると思われる。

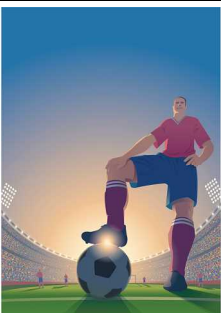


さて、今回私が言いたいのは、何をにしても、「何のためにするのか」を意識することが大切だということを書いていきたいと思います。

ここでちょっと、おもしろい話を紹介します。ちよつと前の話になってしまいますが、サッカー日本代表の選手で、実業家としても有名な、本田圭祐という選手がいたことを覚えてありますか？この本田選手が、ワールドカップ大会の折、

『準備がすべてや』

と言って話題にもなりました。



さて、その本田選手の言っている「準備」って何でしょう？言葉としてはなんとなく理解できますが…。



サッカー選手は、一週間ごとに試合が設定されています。だから、火曜日は何をして水曜日にこれをしてと、自分のコンディションを上げていくそうです。本田選手の場合、試合までの逆算方法をものすごくきっちりしていて、ものすごく細かいのだそうです。それはサッカー以外でもそうで、**何かをする為には、何らかの理由が必要だ**という考えで、何となくの行動は、あまり見られないそうです。

本田選手の小学生の頃のエピソードで、次のようなものがあります。私の場合、というか、多くの人の場合、シューズを買ってもらうのに特別な理由はいりませんでしたよね。



強いて言えば前のシューズがボロボロだから新しいシューズがほしいくらいのものでしょう。しかし、本田選手の場合は、この頃から、「シューズがボロボロで、新しいシューズを買ったら真つすぐなボールが蹴れて、なおかつこんなに早く走れるから新しいシューズが欲しい！」とプレゼンテーションをしていたらしいです。その頃から理由を求められる生活をしているから、今の「**意味づけを明確にして行動すること**」にながっているのかもしれないね。

「何のためにするのか」という意識で活動すると、その活動によって生まれる成果も一段と高いという話を聞いたことがあります。しかし、その「何のために」が「他律的」だと意味がありませんよね。例えば、「先生から漢字を書きなさいと言われたから漢字を書く」「これをしないと怒られるからする」など。

校長室で、この通信を書いていると、少年野球の練習の声が聞こえてきました。「今のボールは、どうしてここに投げたらいいかわかるかい?」「ランナーを帰さないために、あなたはどう動いたらいいと思う?」等の質問が投げかけられていました。今回のテーマである、「何のためにするのか」の実践であり、考える野球をめざしてあるんだなあと感じました。



学校においても、今後も、子どもたち自身がしっかりと目標を設定し、それに向けて、

何のために何をどうする

という意識で行動できる(「準備」していきける)ように、引き続き対応していきたいと考えています。